

第6学年 社会科学習指導案

令和7年10月29日(水)

第6学年3組 30名

授業者 大野 里空

1 小単元名 江戸幕府と政治の安定

2 小単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制に着目して、関ヶ原の戦い、江戸幕府の大名配置、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、武士を中心とした身分制について調べ、まとめる。これらの事象を関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、表現することを通して、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を育てる。

3 評価規準

観点	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①世の中の様子、人物の動きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を理解している。 ②調べたことを年表などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して問いを見だし、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について考え、表現している。 ②江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたり、総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	①江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想や学習計画を立てたり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

4 人権教育の視点(個別的な視点からの取組)

江戸幕府が、鎖国政策をとりながらも、長崎、対馬、薩摩、松前においてそれぞれが様々な条件で交流や交易をしていたことについて調べる活動を通して、その中でも特にアイヌの人々は藩の役人との関係の中で不利な条件を強いられていたことを理解させる。

5 児童の実態

※省略

6 小単元設定の理由

本小単元では、江戸幕府の始まりから、参勤交代や鎖国を調べ、身分制度を確立し、江戸幕府による政治が安定したことを取り上げる。

鎖国の間でも、オランダ、中国、朝鮮、琉球及びアイヌの人々との交流や交易は続けられていたという事実を、資料から児童に読み取らせていくとともに、それらの交流や交易が様々な条件で行われていたことを理解させる。

特に、アイヌの人々は北海道に先住していた民族であることや、当時の幕府や藩の役人との関係から、アイヌの人々が置かれていた生活状況が厳しかったことを理解させることが大切である。そこで、江戸時代の松前藩による支配や不平等な条件で交易の様子と朝鮮との交流の様子を比較することで、人権課題「アイヌの人々」について理解させるために本小単元を設定した。

7 目指す児童像に迫るための手だて

※アンケート結果は省略

アンケートでは、「2. わたしは自分のことが好きだ」「3. わたしは、自分が好きだ」の肯定意見が低かった。この結果から、自分を肯定的に見られない児童が多いことが分かった。また、「7. わたしは、クラスの誰とでも仲良くしている」「12. わたしは、人のよいところを見つけたとき、伝えている」の肯定意見が高かった。この結果から、一人ひとりのよさを受け入れてもらえるため、自分のことを好きになれると考えた。「4. わたしは、自分のよいところを生かして、行動したことがある」の項目では、3組では86%であり、学年全体では80%にとどまっている。このことから、自分のよさを生かして行動に映せるようになることが必要であると考えた。

そこで、高学年分科会では、目指す児童像を「一人ひとりのよさに気付いて受け入れ、自己のよさを生かして、すすんで行動に移そうとする姿」に設定した。社会の中での人間関係に広げて考えると、他者を正しく理解することによって相手のよさに気付いて受け入れていくことが大切である。不平等な対応により困難を強いられた人々がいたことについて知り、その方々の思いを想像することで、公正・公平について改めて考えさせたい。そこで、目指す児童の姿に迫るために以下のような手立てを考えた。

気付く	手だて① アイヌの人々の交易が不平等な条件であったことを知るための工夫 本時では、資料 1「鎖国の間における朝鮮やアイヌの人々との交流や交易の様子」を活用する。児童に朝鮮とアイヌの交易や交流の様子を比較させることで、朝鮮との交流が比較的対等であったのに対し、アイヌの人々との交易が不平等な条件であったことに気付かせていく。
関わる	手だて② アイヌの人々の気持ちを想像できるようにするための工夫 資料 2「アイヌの人々と松前藩との交易条件」を活用し、交易に使用していたさげや米について具体物を用いながら、不平等な交易条件を提示する。その上で当時のアイヌの人々がどのような思いを抱いていたのかを考えさせ、児童同士で意見交流させることで、アイヌの人々の立場で気持ちを考えられるようにする。
認める	手だて③ 歴史上の人権侵害についての事実を理解するための工夫 本時の課題を振り返る際、他の国との貿易や交易、交流についてのまとめを記述させる。その際に、アイヌの人々への差別について分かったことや考えたことを記述している児童を意図的に指名し発表させることで、江戸時代からアイヌの人たちが不平等な扱いをされ、人権を侵害されていたという事実を理解させる。

8 本小単元の学習指導要領上の位置付けと関連的な指導

- ・社会科第6学年の内容「(2) ア(キ)江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手がかりに、武士による政治が安定したことを理解すること。」に位置付く学習である。
- ・音楽科「我が国の音楽」において、我が国や郷土の音楽に親しみ、そのよさを味わう学習の中で、アイヌの人々の音楽を取り上げる。自然や生活、祈りと結びついた表現に触れることで、多様な文化に親しみを

もち、互いの文化を尊重する態度を育てることにより関連させることができる。

- ・外国語科の「聞くこと」の領域において、アイヌ資料館の動画を視聴し、アイヌの文化について取り扱うこととて、外国語科の目標(3)「外国語の背景にある文化に対する理解を深め他社に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と関連させることができる。

9 学習指導計画(7時間)

時	○学習活動	◇人権教育に関わる留意点等
1時	<p>○徳川家康がどのようにして江戸幕府を開いたのかを調べる。</p> <p>○江戸幕府が大名をどのように配置し、どのような場所を直接支配したのかを調べ、話し合い、学習問題をつくる。</p>	<p>◇関ヶ原の戦いの図から、戦いの激しさを読み取る。</p> <p>◇「主な大名の配置」の図から、親藩・譜代・外様といった大名が、江戸から見るとどのように配置されているのか考えさせる。</p>
<p>学習問題 江戸幕府は、どのようにして力を強め、政治を安定させようとしたのでしょうか。</p>		
2時	<p>○徳川家光がどのように幕府を受け継ぎ、権力を確立したのかを調べ、話し合う。</p>	<p>◇日光東照宮と江戸城の図から将軍の権威の高さや江戸幕府の力の大きさを考えさせる。</p> <p>◇武家諸法度から将軍が大名を統制するためにさまざまな取り決めを行ったことを読み取らせる。</p> <p>◇「江戸幕府のしくみ」の図から大名、朝廷などの勢力を取り締まる仕組みになっていることを捉えさせる。</p>
3時	<p>○江戸幕府が全国の大名を従えるために、どのような仕組みを整えたかを調べ、話し合う。</p>	<p>◇加賀藩の参勤交代図から、大名が大勢の家来を引き連れて領地と江戸を行き来したことを捉えさせる。</p> <p>◇教科書79ページで見た江戸図屏風を振り返り、江戸城のまわりに大名屋敷が集まっていたことに注目させる。</p> <p>◇薩摩藩と木曾三川の治水に関する文章から、大名がさまざまな土木工事の費用や労力を負担したことを理解させる。</p>
4時	<p>○江戸時代の人々が身分に応じてどのように暮らしていたのかを調べ、話し合う。</p>	<p>◇資料1を読み取らせ、人々が身分に応じてさまざまな生活を営んでいたことに気付かせる。</p> <p>◇百姓が幕府や藩にさまざまな負担を強いられていたことを理解させる。</p> <p>◇百姓が江戸時代を通じて農具を改良し、農業生産力を高めていったことを理解させる。</p>

5時	○江戸幕府が、どのようにキリスト教を禁止していったのか調べて話し合う。	◇鎖国の間も、さまざまな形で外国との交流が行われていたことに気付かせる。
6時(本時)	○鎖国の中で行われていた、他の国との交流について調べる。また、交易や交流をしているアイヌと朝鮮の人々との交流や交易の様子からその様子や違いを調べる。	◇鎖国の中での交流が、長崎、薩摩、松前、対馬で行われていたことを理解させる。 ◇「鎖国の間におけるアイヌや朝鮮の人々との交流や交易の様子」を配布・提示し、アイヌの人々と朝鮮の交流の様子の違いを比較することで、アイヌの人々の交易が不平等な条件であったことを気付かせる。 【手立て① 気付く】 ◇「自分たちがアイヌの人々ならどのように思うか。」と問うことで、アイヌの人々の気持ちに寄り添わせる。 【手立て② 関わる】 ◇本時の課題に加え、アイヌの人々のことについて記述している児童を意図的に指名し、発表させることで、江戸時代にアイヌの人々が差別されていたことを理解させる。 【手だて③ 認める】 ◇資料2の二つの資料を比較しながら、朝鮮の人々とアイヌの人々に対する処遇の違いに気付かせる。
7時	○江戸幕府が政治を安定させるために、人々に対して行ったことを整理する。	◇今まで調べたことを整理するとともに、それぞれの政策により、幕府の力がより強くなったことを捉えさせ、表現させる。 ◇江戸幕府の政治について人々がどのように思ったかを考えることを通じて、立場によって江戸幕府の政治に対する思いが違っていたことに気付かせる。

10 本時(6/7)

(1) 本時の目標

鎖国の中で行われていた他の国との交流について調べ、理解することができる。

(2) 本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇人権教育に関わる留意点等 ☆評価規準
導入	○前時の振り返りを行い、鎖国していても他の国と交易を行っていたことを想起する。	◇前回の学習を振り返ることで、日本が鎖国しているが外国と交流があったことを想起させる。

	<p>○本時の課題を確認する。</p>	
展 開	<p>鎖国の中で、他の国とはどのような交流が行われていたのでしょうか。</p>	
	<p>○本時の課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オランダ、朝鮮などと貿易をしていた。 ・場所を決めて他の国と貿易を行っていた。 ・蝦夷地では、松前藩がアイヌの人々と交易をしていた。 ・朝鮮は、将軍が代わった時に使節団を送っていた。 <p>○調べたことを共有する。</p> <p>○資料から朝鮮との交流の様子およびアイヌの人々との交流の様子をスライドから読み取り、気付いたことをノートに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人たちが土下座させられている。 ・真ん中に何か物が置いてある。 ・朝鮮は、見物人がたくさんいる。 ・朝鮮との交流は賑わっている。 <p>○アイヌの人々と朝鮮との交流の様子を比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮の方が優遇されている感じがする。 ・アイヌの人々は下に見られていそう。 <p>○アイヌとの交易条件を知り、この交易の条件に対して自分はどのように思うか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々は不平等な扱いをされている。 ・アイヌの人々はかわいそう。 	<p>◇教科書の3つの資料から調べさせる。</p> <p>◇鎖国の間も、様々な形で外国との交流が行われていたことに気付かせる。</p> <p>◇児童の発表から、鎖国のもとでの交流が、長崎、薩摩、松前、対馬で行われていたことを共有し、理解させる。</p> <p>☆「鎖国のもとでの我が国と外国との関係について、理解しているか」【知識・技能①】(発言・ノート)</p> <p>◇資料2「鎖国の間における朝鮮やアイヌの人々との交流や交易の様子」を配布・提示し、アイヌの人々と朝鮮の交流の様子の違いを比較することで、アイヌの人々との交易が不平等な条件であったことを気付かせる。</p> <p style="text-align: right;">【手立て① 気付く】</p> <p>◇資料3「アイヌの人々と松前藩との交易条件」のスライドを提示したり、交易対象になった「さけ」の実際の大きさが分かる写真を提示したりすることでアイヌの人々が一方的に不利な条件で交流を強いられていたことに気付かせる。</p> <p>◇「自分たちがアイヌの人々ならどのように思うか。」と問うことで、アイヌの人々の気持ちに寄り添わせる。</p> <p style="text-align: right;">【手立て② 関わる】</p> <p>◇「アイヌとの交易条件に対して、自分はどう思うか。」について、ノートに記述させる。</p> <p>◇個人で考えたあと、グループで話し合う時間を設ける。</p>
ま と め	<p>○本時の課題のまとめをする。</p> <p>鎖国している中でも、いくつかの場所で交易や貿易を行っていた。アイヌの人々は、朝鮮と比べて不平等な交易を行っていた。</p>	<p>◇まとめは、個人で考えたことをノートに記述させる。</p> <p>◇導入部分の「鎖国している中でも～」という文は、あらかじめ板書しておく。</p>

	<p>○本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>◇本時の課題に加え、アイヌの人々のことについて記述している児童を意図的に指名し、発表させることで、江戸時代にアイヌの人々が差別されていたことを理解させる。 【手だて③ 認める】</p> <p>○考えたこと、大切だと思ったこと、友達の意見で良かったところをノートに記述させる。</p>
--	------------------------	--

II 授業観察の視点

- ・アイヌの人々と朝鮮の交流を資料で比較することは、アイヌの人々との交流の不平等さに気付くための手だてになっていたか。【気付く】
- ・資料や発問が、アイヌの人々の立場や気持ちに共感できるものになっていたか。【関わる】

資料「アイヌの人々と松前藩との交易に関わるスライド」

